

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

一橋大学

前期日程

科目	数学
----	----

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	130~330点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年に比べて難度が下がり、計算量も減少した。きちんと学習してきた受験生にとっては、高得点がねらえるだろう。来年以降もこのレベルの出題が続くと考えて、十分な準備をしておきたい。

〈特記事項・トピックス〉

例年通り、1は整数問題、5は確率であった。また、微積分、空間座標も4年連続して出題された。残り1問は、数列の問題であった。

〈合格への学習対策〉

一橋大学の数学は、(本年のような例外の年もあるが)文系としては難しいものであり、計算力、発想力および正確な論証を必要とする問題が目立つ。基本事項を理解した上で、問題演習を繰り返し、問題を解く発想力と結果を正しく導き出す計算力、および解答としてまとめる論述力を養う必要がある。特に、頻出分野の整数、確率、空間の計量を含めて図形問題には十分に力を入れて学習しておいた方がよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述式	A	整数	典型的な2元2次不定方程式に帰着する問題である。確実に得点したい。	やや易
2	記述式	B, II	数列・対数	すべての n に対して $a_n > 0$ を示した後、漸化式の常用対数をとると、よくある3項間漸化式に帰着する。 n が大きいとき、 2^{n-2} に比べて $\frac{1}{2} \log_{10} \frac{5}{4}$ が十分に小さいことがポイントになる。	標準
3	記述式	II	微積分	直線の傾きを求めるときに、 $\int_{\alpha}^{\beta} (x-\alpha)(x-\beta) dx = -\frac{1}{6}(\beta-\alpha)^3$ が利用できると、ほとんど計算しなくてすむ。	標準
4	記述式	C	空間座標	一見取っ付きが悪そうに思えるが、実は座標平面上での考察が主体であり、空間図形らしい要素は少ない。	標準
5	記述式	A	確率	落ち着けば大したことがない問題と分かるだろう。類題の経験は全く必要ない。起こりうる105通りを調べるだけで解決する。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。